

<香川県内の経済動向> (2018年9月作成分)

現在の景気：回復している。

3か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：

- ① 着実に持ち直している。
- ② 7月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比1.6%増と2か月連続で増加。店調後は前年比1.5%減と2か月ぶりに減少。7月のコンビニエンスストア販売（速報値）は、前年比（店調前）0.1%増と2か月連続で増加。7月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）1.1%増と3か月連続で増加、ドラッグストアが同7.5%増と40か月連続で増加、ホームセンターが同2.5%増と2か月連続で増加。7月の乗用車新車販売は、小型乗用車で前年比4.3%減少したものの、普通乗用車で同14.1%増、軽乗用車で同7.0%増加し、全体では前年比5.4%増と2か月ぶりに増加。

住宅建築：

- ① 貸家を中心に減少している。
- ② 7月の住宅着工戸数は、持家で前年比17.7%と増加したものの、貸家で同59.4%減、分譲で同68.1%減少し、全体では前年比37.6%減と4か月連続で減少。

設備投資：

- ① 増加している。
- ② 「全国企業短期経済観測調査結果（2018年6月）-香川県-」における2018年度のソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資）は、全産業で前年度比52.4%増加見込み。

公共工事：

- ① 振れを伴いつつも高水準で推移。
- ② 7月の公共工事請負額は、国・独立行政法人等で前年比0.2%増、県で同8.3%増加したものの、市町で同77.0%減少し、全体では前年比42.4%減と2か月連続で減少。4～7月の年度累計では前年比7.8%増加。

輸出：

- ① 持ち直しの動きがみられる。
- ② 7月の県内通関輸出額は、前年同月は179億円だった船舶が全滅となったことから、全体では前年比70.1%減と2か月ぶりに減少。1～7月の累計では前年比12.0%増加。

生産活動：

- ① 振れを伴いつつも緩やかな持ち直しの動きがみられる。
- ② 6月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比1.3%増加し、100.6と2カ月ぶりに上昇。化学・石油石炭製品工業（医薬品）、はん用・生産用機械工業（ころ軸受・建設用クレーン）などで上昇。非鉄金属工業（電気金・電気銅）、輸送機械工業（鋼船）などで低下。

観光：

- ① 堅調に推移。
- ② 7月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、前年比22.6%減と6カ月連続で減少。1～7月の累計では前年比8.2%減少。

雇用情勢：

- ① 好調に推移。
- ② 7月の有効求人倍率（季調済）は、前月比0.01ポイント低下の1.80倍。新規求人数（原数値）は、運輸業・郵便業、製造業等で増加し、卸売業・小売業、サービス業等で減少となり、全体で前年比4.2%減と2カ月連続で減少。

（トピックス）

○四国地方整備局のまとめによると、2018年上半期（1～6月）に県内にクルーズ船が寄港した回数は44回で前年同期（9回）の約5倍となり、既に17年1年間（26回）を超えた。港別の寄港回数は宮浦港（直島町）が最多の14回。高松港（高松市）が11回で続き、内海港（小豆島町）9回、笠島漁港（丸亀市）4回、坂手港（小豆島町）3回などだった。

せとうちクルーズ（広島県尾道市）が昨秋に就航した瀬戸内海を周遊する小型豪華客船「ガンツウ」の寄港が31回を数え、宮浦、坂手、土庄、家浦、笠島への寄港は全てガンツウで、港湾を中心とした観光業に新風が吹き込んだ。ガンツウ以外が寄港したのは高松、内海、坂出港で、商船三井客船の「にっぽん丸」が4回、フランスの「ロストラル」が3回、日本クルーズ客船の「ぱしふいっくびいなす」と英国の「カレドニアンスカイ」が各2回など計13回だった。

同整備局によると、18年下半期は確定分だけで県内に8回の寄港が予定されており、年間では計52回になる見通し。今後の誘致活動次第では、さらに伸びる可能性があるとしている。

項目	変化方向			評 価				
	好転	不変	悪化	晴	晴一部曇	曇	曇一部雨	雨
現在の景気	○	●	○	○	●	○	○	○
3か月程度の見通し	○	●	○					
個人消費	○	●	○	○	●	○	○	○
住宅建築	○	○	●	○	○	●	○	○
設備投資	○	●	○	○	●	○	○	○
公共工事	○	●	○	○	●	○	○	○
輸出	○	●	○	○	○	●	○	○
生産活動	○	●	○	○	○	●	○	○
観光	○	●	○	●	○	○	○	○
雇用情勢	○	●	○	●	○	○	○	○
企業収益	○	●	○					
企業倒産	○	●	○					
資金需要	○	●	○					